

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89-1		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2170500389-00&ServiceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で目の行き届いた、介護ができるように一人一人の個性を生かせるように、四季折々の作業療法、体づくり、ラジオ体操や、頭の体操等又F地域との触れ合いは、秋祭りのお神輿の見学や近くの保育園での行事の見学等を楽しんでいましたがここ3年間はコロナ禍で行事がすべて中止になりました。3年間は施設の中で、折々の行事を計画し行いました。又、24時間医師が在中しており安心した生活が送れます。職員は常に利用者さんとの距離をなくし、寄り添う介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が話しやすい雰囲気にしてコミュニケーションを図り、共に過ごす時間を大切にして、助け合いながら地域の中で安心して落ち着いた生活ができるように支援している。日課にラジオ体操を取り入れ、ゲームや作品作り、脳トレ等での工夫、家事の手伝いや花を育てる等で心身機能の維持向上に努めながら、役割や活躍できる場を提供し楽しく張り合いのある暮らしにしている。代表者の医師は、毎朝利用者の状態を確認し職員への労いの言葉をかけている。コロナ禍が長期化しているなかで、徹底した予防対策に取り組み利用者も職員も陽性者を出すことなく乗り切っている。24時間医師の支援体制下で看護師が常勤し、職員の安心にも繋げて最期まで穏やかな生活を提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	様々な機会を通じて地域の交流・安全な生活・コミュニケーションを大事にし、挨拶や会話を通じ親近感を持っていただけのように接しています	職員は、身体機能の維持向上に努め、地域の中で安定した生活が送れるように取り組んでいる。管理者は、職員が理念を理解して日々のケアで実践しているかを朝夕の申し送り時などで確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭り等の行事にも参加させていただいています	近所のコンビニを利用することで顔馴染みになったり、訪問美容に近隣の方に来てもらったりしている。敷地内で散歩時に住民とフェンス越しに挨拶や会話している。利用者の行方不明時には、近所の方の協力を得て無事解決した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて自治会長さんや民生委員さんの協力の下、交流を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に1回開催しており、四季折々の行事や問題点等について話し合い意見交換や他の事業所のサービス内容を参考にしてサービス向上に生かしている	コロナ禍にて利用者や家族は欠席としているが、隣接する母体の広い施設にて対面の会議を開催している。事業所の現状・行事・事故やヒヤリハット等を報告し、意見交換している。地域の情報をもらい参考にしたり、BCPの話題をもらい作成した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの入居の問い合わせや、社協の方たちとの連携を密にして、相談や、要望、指導を受けたりして課題の解決を図っている	書類提出時は市の担当者に実情を伝えているが、電話やメールで連絡したり、情報を得たりしている。経済的困難者の受け入れが多く、市や社会福祉協議会の担当者との関わりが深く、連携し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束となる具体的な行為を正しく理解しており入居者の気持ちになって身体的、精神的負担を理解している、一番外の玄関の施錠は、ある意味入居者を守るためにしている	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を定期的に開催している。言葉遣いや対応等も含めて拘束しないケアに努めている。不適切な行為等は、その場で注意したり、勉強会で話し合ったりしている。委員会の報告と共に、職員研修を行っているが記録が確認できなかった。	研修内容、日時、参加者等を記録に残し、身体拘束廃止に向けて更なる理解を深め、全職員が共有して取り組めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はされていない、少人数のホームであるため、全員が目に入る距離にあるため、注意ができる		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度の必要性に応じて分からないことは市や関係者に問い合わせています。基本的には入居する前に独居の方は日常生活支援の活用を取ってもらっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時に説明したうえで入居を決めて頂いています、又改正等が生じた場合は文書にて送付したり本人に説明をしたりして理解を得ています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に触れ合い箱を設置して気軽に意見や、要望を書いていただくようにしています。又、行政機関などを利用できるように表記しています	家族には、電話や面会時に利用者の状況を説明して要望等を聞き、本人には直接聞いています。要望があれば、職員で話し合っ対応している。面会中は中庭で行い、面会後はスプレー消毒して事業所に入ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決まって時間を割いてはいないが、毎日の朝の申し送りでいろいろな意見や要望があれば言ってもらっている	管理者は、日頃から職員の提案など聞くように務め、朝夕の申し送り時などその都度聞いている。炊飯器の買い換え、洗濯機の修理、行事やレクリエーションの物品購入等は、職員意見で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日朝顔を出して、情報交換してコミュニケーションを取り、従業員にねぎらいの言葉をかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングにて学んでいる、外部講習の案内等をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や、ケアマネが、他の事業所の良い所を取り入れてサービスの向上に努めている		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の意向を聞いてどうした生活を望んでいるかを聞き取り職員全員で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には見学に来た時に困っていること、これからどういう生活を望んでいるかを聞いておく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの情報収集をして、何を必要としているか等を見極めて他のサービスが必要な場合は協力して支援します		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりを大切に、だめなことは注意する、声を掛け合い、助け合いの精神で日常を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の意向に耳を傾けて相談内容に取り組んでいき本人家族が安心できるような関係づくりにしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも訪問しやすい環境づくりを心掛けていますがここ3年間はコロナ禍で面会は外でいただいています	リビングに公衆電話を置いて、家族や友人の電話を取り次いだり、かける時の支援をしている。家族以外の訪問もあり、感染対策をしながら面会している。通っていた集会所へ、知人の送迎で毎月出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係がうまくいかず孤立してしまう人もいますが行事やレクリエーション・作業療法などを通じて、利用者同士が関わりあえるように努力しています		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談内容の電話や、再入所の相談に乗ったり、双方の状況を話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所してどうい暮らしをしたいか、一人一人に聞き取り、出来ることは実行して、生活不安を起こさせないよう努力する	言葉で思いや意向を伝える人が多く、日々の暮らしのなかで聞いている。夜勤や入浴時に個別に聞く事もある。困難な人には、表情で察したり、筆談したりしている。話しやすい雰囲気作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学時にお話を聞きながら、今までの生活環境に似せた、生活つくり心かける		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや体調の変化に早急に気づき申し送り等で報告するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や、家族の要望等を取り入れて介護計画に反映している	6ヶ月毎にモニタリングを行い、本人と医師も参加し担当者会議で話し合い、介護計画の見直しをしている。毎朝、医師が利用者の状態を確認し、変化があれば計画を見直すなど、現状に即した介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を付けており気づいたことを申し送りで話し合い実践や介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により、本人や家族の要望に応じ理美容の利用や、近隣ケアの参加等を通じて支援している		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	庭に花などの植物等を植えて水まき等をして花の成長を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は医療機関が隣接しているため何か異常があった場合は早急に対応している	入居時に全員が隣接する母体の医療機関に変更している。専門医への受診は家族の付き添いとしているが、職員が同行する場合もある。医師による毎日の確認と看護師が常勤し、緊急時も24時間対応している。必要時は隣接する歯科に職員が同行し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調の変化に気づいたときは、看護師を通して、主治医に連絡をし、指示を仰ぐ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や、後見人さんたちと連絡を取り合いながら部屋の確保や、医療機関との連携を取りながら家族に支援をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入居時に重症化した場合の本人家族の意向を聞いている。又現に重症化した場合は再度、本人、家族との話し合いで主治医を交えて話し合いをして決定する	入居時に事業所の方針を説明し、本人や家族の意向を確認している。状態の変化に応じて、医師からの説明と話し合いを行い、希望に合わせて家族と一緒に看取りもしている。終末期は医師とも連携し看護師が中心となり、申し送り等で方針を共有しながら看取りプランにて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や、介護職員と初期急変時について、職員同士話し合いや、緊急な場合の応急手当ができるよう、酸素の使い方等を訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や、地震の訓練は消防訓練を兼ねて実施している	各種マニュアルを整備し、利用者も参加し火災や地震の避難訓練を実施している。コロナ禍にて夜間想定は、年度末に計画している。水、米や缶詰等を備蓄し、BCPを作成している。地域代表者に協力依頼していたが、現在は積極的に行っていない。	夜間は特に職員体制が手薄になることも踏まえ、コロナ禍が終息時は、事業所の実態を発信しつつ住民の協力が得られるような働きかけが望まれる。

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全個室となっているため、プライバシーは保たれていると思われる。又声掛けも、優しく、気分を損なわないよう配慮している	一人ひとりを尊重した言葉遣いや対応に心掛け、優しい声かけで接している。馴れ馴れしい態度や言葉、大声や声のトーンにも注意している。脱衣室に衝立を置いたり、表札を花の名前にする等でプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとりながら、本人の希望を聞き、本人の意思に沿って、出来ることはやって頂くようにして、なんでも話せる関係づくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせながら見守りしながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大体月1回ぐらいのペースで、理美容に行っていて、常に見守りしながら、その人に合った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の席も気が合う同志となりに座ってもらい、たまにはリクエストも聞きながら出来る範囲内でしている、食器拭きも当番制にして一緒にしてもらっている	旬の野菜を使い、利用者の好みも取り入れて調理している。野菜の下拵え、下膳や食卓拭き等は、声かけしながら一緒に行い、食器拭きは当番制で行っている。行事食や誕生日のお祝いなどで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食事量を守り、制限のある人はそれに合わせて、実行している。10時や3時ティータイムをして水分補給や、夜の水分も必ず寝る前にもっていきもらい部屋で飲んでもらう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして、出来るだけ自分でやってもらうように声掛けをする。又入れ歯の人は、洗浄液につけておく		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や、食事の前後の誘導を行っている。又昼間はトイレで排泄を心掛けている	トイレでの排泄を基本として、その人に合わせて声かけや見守りをして、現在日中のオムツ使用者はいない。夜間も時間で声かけをしてトイレでの排泄を支援している。入居時や退院後にオムツ使用がなくなった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトや、デザートやバナナ等食物繊維の物や、野菜中心の食事や、水分補給をこまめに摂取していただくよう心掛けていて、日課に体操等も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望をある程度取り入れて、入る順番などを決めている。体調等に注意をしながら入浴をしてもらっている	一番風呂やこだわりの固形石けんを使用する等、利用者の希望に合わせている。嫌がる人には、日にちを変えたり、誘い方を工夫し対応している。一人で入りたい人は浴室外で見守り、おしゃべりをしたりして入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠りが浅い人や、どうしても寝つきが悪い入居者さんには、軽い睡眠薬等の処方してもらい、気分良く寝られるようにしている。又天気の良い日は、お布団を干して気持ち良く寝てもらおうよう心掛けています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示により、用法・用量を守って服用してもらっている。又、体調の変化に早急に気づき主治医に報告し変更があればミーティング等で、みんなで共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その季節に合った行事を(お花見・クリスマス・誕生会等)行っている。又、好きなことをして楽しんでいきます(塗り絵・花壇の手入れ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、月に1回ぐらい買い物に同行していたりしていたが、ここ4年間はコロナの為外出機会はないです。地域のお祭り等もすべて中止になっています	遠出の外出が難しく中庭や敷地内での散歩、事業所の空き地で航空祭を見学、コンビニへ買い物に行く等している。家族が買い物に連れて行く人もいる。洗濯物干しや取り込み、花の水やりや草取り、日向ぼっこや話をする、ラジオ体操やゲームをする等で外気に触れる機会を多くし気分転換を図っている。	

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る人は、毎月決まった小遣いをやり、たまにコンビニで買い物をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には公衆電話が置いてあり、自由に電話をかけられるようにしてある。外からお友達からのTELもかかってきます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節のお花を生けたりホームの庭には鉢植えを置いて楽しんでもらっています	玄関に生け花や季節の塗り絵作品を飾り、観葉植物や花の鉢植えを置いている。空気清浄機を設置し、常時の換気と日に3回ドアノブや手すり等を消毒し、利用者もマスクを着用し感染予防対策をしている。室内犬を飼い、布団や洗濯物を干し家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は出入り自由ですし、又気の合ったもの同士で、庭の椅子に腰かけながら会話を楽しんだり、一人で日向ぼっこをしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具等を持ってきてもらい好きな絵や写真を飾ってもらい少しでも自宅での生活との距離感がないようにしている	自宅で使い慣れたTV、机、イス、小物入れや寝具類等を持ち込み、家族写真や自分の作品を飾り、その人らしい居室にしている。自分でモップかけの掃除をしたり、TVを見たりして自由に過ごせるようにしている。好天時は布団を干し気持ち良い睡眠への支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の掃除や、食後の食器拭き、花壇の水やり等日常生活のできることは、無理のない範囲でしています		